

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第5号】
令和2年
10月21日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

子供の学びのために



教育長 勝亦 重夫

秋本番を迎え、御殿場を囲む山々や収穫を終えた田畑が清々しい風景を見せてくれます。「収穫の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」等、秋にちなんだ言葉は多くあります。その言葉の中に、暑い夏を乗り切り気候の良いこの時期にいろいろな活動を積極的にやってみようとか、大きな成果を出していこう、という人々のやる気や期待といった気持ちを感じます。

今年度も早くも半分を過ぎてしまいました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、長期に及んだ臨時休業や大変短い夏季休業等、異例の対応で教職員の皆さんに大変な負担をかけることになりました。すべてが、今までに経験のない対応でしたから、心身の疲労は大きなものがあつたと思います。しかし、皆さんの献身的な対応によって、子供たちが安心して学ぶことのできる環境を作っていたいていま

す。ありがとうございます。コロナ禍の真つただ中ですが、確実に時は刻まれていきます。その中で「子供たちの学びを止めない」とことは、教育に携わる私たちにとつて何よりも大切なことです。教職員が知恵を絞つて、教科学習や行事、特別活動等、子供たちに様々な学びの機会を作つてくれていることに感謝します。また、「すべての子供には学ぶ権利がある」ことを私たちは再認識していく必要があります。勉強に気が向かない子供、不登校に陥つていいる子供、非行に走つていいる子供等、学びに向かえていない子供たちがいます。しかし、充実した人生を送るためには、学ぶことや学びに向かう気持ちを養うことが必要です。「誰一人取り残すことない教育」を実現できるようにお願いします。

先日、テレビを見てみると全国の運動会の様子が紹介されていきました。今年の運動会はコロナの影響で、いつもと同じ運動会はできません。御殿場市の学校でもそうでしたが、コロナの感染リスクを減らすために日程や競技内容はかなり工夫しなければなりません。番組で紹介されたのは、手作りの1mのバトン、直接接触しないバトンの方法、一人で行う「組体操」等でした。「なるほどよく考えたな」「ほのぼのするな」といったものが沢山あり、改めて教職員の発想力のすばらしさや子供のために何とかしようという熱意に感動しました。

その番組の中で、保護者の声がいくつか紹介されていきました。「コロナの大変な時に、子供たちのために色々と工夫してくれてありがたい。」「これだけ準備するのはきつと大変だったと思います。」「いつも遅くまで準備していたのを知っています。」

子供たちのことを一生懸命考えてくれる、一生懸命やってくれる。この姿勢が、子供や保護者から「先生」として信頼されることは、今も昔も変わりません。何かをするから信

頼されるのであつて、何もしなければ信頼は生まれません。コロナ対応でこれからも大変ですが、子供たちの学びのためによろしくお願いします。

◇ 九月に中央教育審議会の間まじめ骨子案が発表されました。骨子案の前身で注目されるのは、「日本型教育」とICTとの最適な組み合わせの実現が示されたことです。学習指導だけではなく、生徒指導も含めて、知徳体を一体で育む「日本型教育」は、子供たちの生活の様々な場面に教職員が関与して全人的な成長を促すことから、学力水準を高めてきただけではなく、人間力・社会力を育んできました。教育の分業化が進んでいる欧米と比較すると、教師としてのやりがいや満足度という点では、日本の教師の自己評価は高いという事実があり、海外からも関心を持たれています。「日本型教育」が教職員の多忙化を引き起こした要因の一つとも考えられるので、「働き方改革」を進めながらどのような「日本型教育」を実効あるものにするかが大きな課題です。知恵を出し合い、より良い道を探していきましょう。

教育指導センターから

風薫る

タブレットのある授業風景

効果的活用への期待

指導員 岩田 京子



電子黒板やデジタル教科書、PCでの調べ活動など、ICTを活用した学習は、その頻度や内容に違いはあるものの、どの学校でも日常化しています。

今年度は新たに市内の中学校にタブレットが配置されました。早速、各教科で様々な活用がされているようです。数学科でもタブレットを用いた授業が行われています。

◇御殿場中学校一年

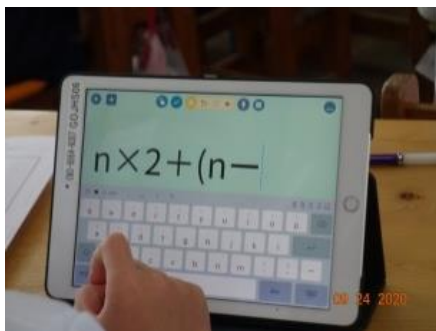
「文字式で表せるかな？」

授業者 杉山美央先生

基石を正方形に並べていき、一辺がn個の時の総数を文字式で表す授業です。一人一台のタブレット使用です。

〈自分の考えを提出〉

課題成立後、まずはワークシート紙面で考えます。思考のヒントとして一辺と総数の対応表も準備されました。次にロイノートで提出です。教師は解決や説明に使える図をタブレットに配信します。



送られた図を用いて解答する生徒、ワークシートを写真に撮って提出する生徒、直接タブレットに式や図を書き入

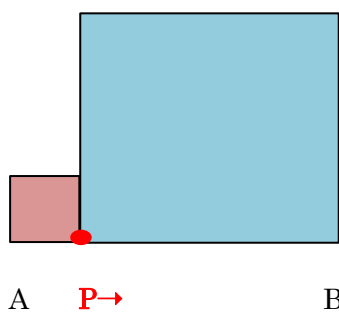


◇富士岡中学校二年

「二次方程式の利用」

授業者 出口和輝先生

図形上の点が動くことによつて変化する面積が、指定された数値になる時の点の位置を二次方程式を利用して求める授業です。教師用タブレットを活用します。



〈課題把握〉

点の動きで変化していく図形を動画で確認します。例題はデジタル教科書、練習問題は自作動画です。タブレットから大画面に送ります。問題文だけではわかりにくい面積の連続的変化を視覚的に理解することができました。

〈タブレットでの個別支援〉

支援中の画面は黒板のスクリーンに映し出されています。個々の学習中の教室で、解決の

ヒントを必要とする他の生徒にも支援が共有されます。

◎いずれの授業にもタブレット等ICTを活用した効果が多く認められました。しかし、それだけではありません。

杉山先生は紙にこだわりました。初めは紙面上で考える支援にも紙の対応表を準備する。生徒の実態を捉え、デジタル機器を紙の学習を補完するものとして活用しました。出口先生はタブレットでの個別支援をリアルタイムに黒板に映して共有を図りました。デジタル機器だからこそできる個への支援の工夫です。

コロナ禍の下、「教育は人間主体」を再確認しました。人から人、人と人との学び合いによって子どもたちは育っていきます。教師の存在の意義と責任を考えます。

子どもの発達段階や個別の実態把握を大前提とした上で、デジタル機器が学びに効果的に活用される授業づくりが期待されます。